

第42回水の作文コンクール 審査評(優秀賞)

賞	題名 学校名・学年 氏名	審査評	
地方審査 優秀賞	節水 喜界町立喜界中学校 2年 上地 琉喜	私たちの当たり前が、世界では当たり前でない。できることは限られており、節水することの具体例を記述することで、筆者の主張を支えている。また、水が手元に届くまでの多くの人の労力に感謝していることに好感がもてる。	書き出しの工夫から水のありがたさが伝わってくる。いつでもどこでも水が飲めることが「当たり前」ではないことから、本人が考えた「節水」を多くの人に取り組んでもらい、「良い循環」を作っていこうという、主張が明確な作品となっている。
地方審査 優秀賞	受け継ぎたい、中村医師の思いを 学校法人津曲学園鹿児島修学館中学校 3年 加々良 健太	中村哲医師の死をきっかけに、彼の活動、水募金、世界の水の状況を調べ、「水」の重要性に気付いていく筆者。これまでの生活を振り返り、「水」に対する思いが変化していく様子を適切に表現している。	水資源の大切さを、中村医師の取組から考え直している作品である。担当教師の話や本を通して、真剣に考えている姿が伝わる作品になっている。しかし、具体的にどのような取組をすすめていけばよいかについての提案が弱い。
地方審査 優秀賞	小さな活動 学校法人津曲学園鹿児島修学館中学校 2年 井手迫 茂花	「私ができる小さな活動をこれからも続けていきたい。」という結びの一文が力強く、好感がもてる。「水」の大切さに気付かせてくれた幾つかの経験を効果的に配置するとより結びの一文が生きてくる。	2つの事例を通して、水の大切さや貴重さについて述べていた。具体的な取組として赤十字の募金活動をあげているが、水資源の確保という意味で効果がある取組であるといにくい点が課題であるが、「人の命を作っている水」の大切さが伝わってくる作品である。

第42回水の作文コンクール 審査評(入選)

賞	題名 学校名・学年 氏名	審査評	
地方審査 入選	「私達に何ができるのか」 喜界町立喜界中学校 2年 喜禎 あさひ	手洗い，うがいさえできない国があるという事実は，水の問題が存在していることを明らかにしている。中学生らしい視点で水の問題をとらえ，今できること，将来できることを考えている。「水は命」という言葉が心に響く。	ニュースや新聞等から得た情報を元に，「水は命」であるという主張が伝わってくる作品である。その水を守る取組として寄付をあげているが，より具体的な取組があると，説得力のある作品になると思われる。
地方審査 入選	大事な水 出水市立高尾野中学校 1年 早瀬 心葵	大切に水を使っていこうとする筆者の主張が，理由を述べながら丁寧に述べられている。前半部分を削り，結びに書かれている「家族とも水の大切さについて話し合い…」という部分を書き膨らませるとさらに主張が生きてくる。	大切な水をどのように守っていくかについて，具体的な取組が書かれており，説得力がある作品になっています。特に作文の後半では，「水に恵まれている日本」だからこそ，節水に心がけないといけなことが強く訴えかけられている。
地方審査 入選	水が世界中で使えるように 喜界町立喜界中学校 2年 市山 綾乃	0.01%，約十二億人，八秒に一人，……数値を出すことで意見文の説得力を増している。募金に目を向けているが，記述の内容が重なっている部分があるので，構成を整理するとよい。	ユニセフ募金に協力することが，水環境をよくしていくことにつながるが，事例をあげてわかりやすく書かれている作品である。募金以外の取組まで書くことができれば，より説得力のある作品になると考える。
地方審査 入選	未来の水の惑星を守るために 喜界町立喜界中学校 2年 瀧元 楓	あるテレビ番組の視聴から「水の問題」に思いをめぐらす筆者の様子がよく伝わってくる。水が歴史をつなげ，命をつないできたという主張が心に残る。	水の問題が様々な問題とつながっていることがよくわかる作品となっている。「歴史をつなぎ，命をつないできてくれた水」の有限性を認識することの大切さがよく伝わってくる。その反面，水を守るために具体的に何をしたらよいか伝わりにくい作品になっている。
地方審査 入選	世界中が水と笑顔であふれるように 喜界町立喜界中学校 3年 和田 乙葉	「水ストレス」という言葉が読み手に強く残る。発展途上国に目を向け，私たちにできることを例を取り入れながら，意見を展開している。文題も適切で中学生らしい作品に仕上がっている。	様々な情報を元に，水不足が世界で深刻な問題となっていることを訴えている作品となっている。具体的な取組として二つあげているが，寄付のことだけではなく，生活排水を少なくする取組を具体的に述べられるとさらによいと考える。